

MSM-03：リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

1. 計測の意義

- 周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、発生率を下げることにつながる。

2. 集計期間・提出期限

集計期間	提出期限(予定)
25年10月1日～12月31日	7月31日(金)*
26年 1月1日～ 3月31日	
26年 4月1日～ 5月31日	10月30日(金)

* 7月31日までにご提出が難しい場合は、10月30日までにまとめてご提出ください。

今年度は、26年6月1日～9月30日までの計測は不要です。

(診療報酬改定の影響をふまえ、今年度は改定前の定義・手順で運用するため、
集計期間を調整しています)

MSM-03: リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

3. 指標定義・使用データ (DPCデータ)

<定義・計算式>

$$\text{計測値(\%)} = \frac{\text{分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数}}{\text{肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}} \times 100$$

【除外条件 (分母)】

入院時年齢が15歳未満の患者

<使用するデータ>

DPC様式1	DPC様式3	入院EF統合 ファイル	外来EF統合 ファイル	サーベイランス	その他
○		○			別表_MSM-03-s 別表_MSM-03-y

MSM-03: リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

4. 計測手順 (DPCデータ) 1/2

1) 分母

手順	使用データ	参照する変数	作業
1	様式1	A000030-1 退院年月日	集計期間に退院した患者を抽出する。
2	様式1	・ A000010-1 生年月日 ・ A000020-1 入院年月日	手順1に該当する患者の入院時年齢※を求める。 ※入院時年齢 = 入院年月日 - 生年月日 なお、入院時年齢は親様式1の「様式1開始日」を用いて算出してもよい。
3	様式1	・ A000010-1 生年月日 ・ A000020-1 入院年月日	2のうち、入院時年齢が15未満の患者を除外する。 【除外条件】
4	・ 入院EFファイル ・ 別表_MSM-03-s	レセ電算コード	入院EFファイルのレセ電算コードを参照し、危険因子の手術リスト(別表_MSM-03-s)に該当する手術名*1がある患者を抽出する。 ※別表_MSM-03-sについて 区分1は15歳以上の患者、区分2は40歳以上の患者を対象とする。
5			4で絞り込んだ患者数を分母とする。

*1リスクレベルが「中」以上の手術は、「2025年改訂版 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン」(日本循環器学会等)に準じて抽出

MSM-03: リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

4. 計測手順 (DPCデータ) 2/2

2) 分子

手順	使用データ	参照する変数	作業
1	<ul style="list-style-type: none"> 入院EFファイル 別表_MSM-03-y 	<ul style="list-style-type: none"> 薬価基準コード レセ電コード 実施年月日 診療明細名称 	分母のうち、入院EFファイルを参照し、当該入院期間中に以下のいずれかに該当する患者を抽出する。 (ア)以下の算定があった患者 113006910 肺血栓塞栓症予防管理料 (イ)抗凝固療法 (以下の薬価基準コードの薬剤が用いられたもの) が行われた患者 【薬価基準コード】 *2 3332\$ 3334400\$ 3334401\$ 3334406\$ 3339001\$ 3339002\$ 3339003\$ 3339004\$ 3339400\$
2			1で絞り込んだ患者数を分子とする。

*2 これらの薬価基準コード及び薬価基準コードに対応したレセ電算コードを別表_MSM-03-yに示す。別表に記載のない薬剤であっても、分子手順1の薬価基準コードに該当する薬剤であれば集計に用いて構わない。

MSM-03：リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

5. よくある質問(FAQ)：DPCデータで計測する場合 1/2

最新の「よくある質問(FAQ)」は、オフィシャルサイト(https://jq-qiconf.jcqhc.or.jp/event/kashika_project_2026/)にて
随時更新・掲載します。指標ごとのFAQに加え、全指標共通のFAQも掲載していますので、あわせてご参照ください。

管理番号	質問(Q)		回答(A)	更新日
TN250328	分母	リスクレベル「中」以上の手術の定義が曖昧なので詳細を教えてください。	計測手順書及びマスターデータ (Excel) として提供しています。	25.05.14
TN250339	分母	リスクレベル「中」以上の手術について、院内で定めたリストを用いてもよいか？	貴院で、より適切と考えるリスク評価基準がある場合は、その基準を用いて計測いただいて構いません。	25.05.14
TN250340	分母	集計期間中に退院されていれば、入院日が当該期間以前であっても、集計対象と考えるよろしいでしょうか。集計期間とEFファイルの対象期間は違うという認識でしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 入院日が集計期間以前であっても、集計対象となります。 分子は「EFファイルを参照し、当該入院期間中に…」と指定しておりますので、集計期間とEFファイルの対象期間は異なります (集計期間前のEFファイルも対象になります)。 	26.06.03
TN250351	分母	手術は実施したが算定できなかった場合も含めると解釈でよいか。	手術を実施した場合は、算定の有無に関わらずカウントしてください。	25.05.14
TN250362	分母	入院期間中に対象となる手術を複数回行っている場合はどのようにカウントしますか。	同一の入院期間中に対象となる手術を複数回行っている場合でも、分母は1件としてカウントします。	26.06.03
TN250373	分母	区分1(15歳以上)の年齢の上限は特に定められていないか。区分2が40歳以上のため、区分1が15歳～39歳とも解釈できる。	区分1の年齢の上限は特にありません。	25.05.14
TN260066	分母	集計期間内に同一患者が複数回入退院し、その都度対象となる手術を受けている場合はどのようにカウントしますか。	集計期間内に一度退院し、再入院した場合は、同一患者であっても入退院ごとに別の症例としてカウントします。	26.06.03

MSM-03: リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

5. よくある質問(FAQ): DPCデータで計測する場合 2/2

管理番号	質問(Q)		回答(A)	更新日
TN250384	分子	薬剤リストについて、別表_MSM-03-y (HOTマスターをもとにしたリスト) にない薬剤も使っている場合、分子の対象になるか。	別表_MSM-03-yはあくまで参考です。計測手順書に記載の「薬価基準コード」に該当する薬剤であれば対象になります。	25.05.14
TN250395	分子	術中のみに抗凝固薬を使用した場合であっても「抗凝固薬の使用あり」としてよいものなのでしょうか。	分子は、「分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数」ですので、術中のみに抗凝固薬を使用した場合であっても、肺塞栓予防対策として抗凝固薬を使用した場合は分子に該当します。	25.05.14
TN250409	分子	分子: 「EFファイルを参照し当該入院期間中に・・・」となっていますが、「入院期間中」という定義だと手術日に関係なく、術前や退院時処方なども分子に該当してしましますが、それらを含めて計測することによいのでしょうか。	プロジェクト適用指標の計測は、原則、手順書通りに対応いただくこととしていますので、入院期間中に手順書に示された薬剤が使用された場合は計測に含めます。ただし、指標の趣旨から考えて、明らかに該当しないと思われる場合は、病院の裁量で計測対象外としていただいで構いません。 または、計測手順通りに計測いただき、計測結果をご覧ください際には、肺血栓塞栓症予防対策以外の投与も含まれる可能性があるということ院内に共有し、分析につなげてください。	25.05.14
TN250410	分子	分子として「113006910 肺血栓塞栓症予防管理料の算定が」あった患者とありますが、この「算定」とは、「オーダーベース」ではなく「実際に算定が行われたもの」という理解でよろしいのでしょうか？	実際に算定された患者を指しています。	25.05.14

MSM-03：リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

6. 参照値 (25年度可視化プロジェクト計測結果：24年10月-25年9月)

	全施設	200床未満	200床～399床	400床～599床	600床以上
施設数	553	124	182	148	99
平均値	88.83	86.27	89.79	89.85	88.75
最大値	100.00	100.00	100.00	100.00	99.03
75 th -センチル	95.79	97.71	96.12	94.99	94.86
中央値	92.11	91.73	93.22	91.78	90.85
25 th -センチル	86.18	84.95	88.06	87.72	84.59
最小値	0.00	0.00	34.62	13.07	44.30

MSM-03: リスクレベルが「中」以上の手術を 施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

7. 参考資料

- 日本循環器学会等
2025年改訂版 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症および肺高血圧症に関するガイドライン
https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/03/JCS2025_Tamura.pdf
- 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「医療の質評価と医療情報の提供に関する調査研究」令和3年度 総括研究報告書
共通QIセット 2021/10/21版「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率」
https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202122065A-sokatsu1.pdf#page=36
- 公益社団法人全国自治体病院協議会 医療の質・医療安全指標の評価・公表等推進事業
一般16 肺血栓塞栓症の予防対策実施率
https://www.jmha.or.jp/contentsdata/shihyo/20260428/i_16.pdf
- 公益社団法人全日本病院協会 診療アウトカム評価事業
No. 015 リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率
<https://www.ajha.or.jp/hms/qualityhealthcare/>
- 日本赤十字社 令和6年度 医療の質の評価・臨床評価指標
病院全体 22 手術ありの患者の肺血栓塞栓症「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率」
<https://www.jrc.or.jp/medical-and-welfare/medical/pdf/20260224-bc3976cee93b04114a13ac0fb4da5c07a8882b57.pdf#page=51>